

会 議 記 録

名 称	中央区基本構想審議会快適部会（第3回）	
開催年月日	平成28年6月27日（月）18:30～20:40	
場 所	中央区役所本庁舎3階 庁議室	
出 席 者	委 員	市川宏雄、磯野忠、田中広一、志村孝美、平野熙幸、大辻正高、大北恭子、梶原寸真子、今井健、吉田不曇
	幹 事	平林治樹（企画部長）、望月秀彦（環境土木部長）、田村嘉一（都市整備部長）、林秀哉（防災危機管理室長）、濱田徹（企画財政課長）、御郷誠（企画部副参事（都心再生・計画担当））
配布資料	中央区基本構想審議会快適部会（第3回）次第 中央区基本構想審議会「快適部会」委員・幹事名簿 中央区基本構想審議会快適部会（第3回）座席表 資料1 第2回部会でのご意見等を踏まえた対応状況について 資料2 中央区基本構想審議会 快適部会 現況と課題（修正案）【新旧対照表】 資料3 中央区基本構想審議会快適部会 施策の方向性（素案）	
議事の概要	1 開会 2 議題 （1）第2回部会でのご意見等を踏まえた対応状況について （2）中央区基本構想審議会快適部会 現況と課題（修正案）について （3）中央区基本構想審議会快適部会 施策の方向性（素案）について （4）その他 3 閉会	

## 1 開会

配布資料の確認。

## 2 議題

### (1) 第2回部会でのご意見等を踏まえた対応状況について

### (2) 中央区基本構想審議会快適部会 現況と課題（修正案）について

事務局から、資料1「第2回部会でのご意見等を踏まえた対応状況について」及び資料2「中央区基本構想審議会快適部会 現況と課題（修正案）【新旧対照表】」を説明。

- 市川部会長 今回の説明について質問等があればお願いしたい。
- 田中委員 資料2の3ページ「(イ) 公園・児童遊園等の整備・充実」の下から2行目の文章で「整備していく必要があります。」とあるが、ぜひ「積極的に整備していく必要があります。」としていただきたい。
- 市川部会長 次の「(ウ) 安全・快適な水辺環境の整備・充実」では「さらに促進」と書いてある。今整備しているものをより増やしていく、さらに頑張りたいという表現を入れることになる。
- 梶原委員 資料2の2ページ、「(ウ) 犯罪のない安全・安心なまちづくりの推進」の下段に「武力攻撃や大規模テロなど」とある。中央区の4つの宣言の中に平和都市宣言があると教えていただいた。ただテロから身を守るのではなく、テロがない社会を皆でつくっていくことをアピールすることもあると思う。よってここに平和都市宣言をした中央区にふさわしい、「平和なまち」、「ここにテロはない」といったニュアンスがあると良いと思う。
- 市川部会長 この文脈は、テロ等に関する情報の収集と発信ということか。
- 吉田委員 はい。
- 市川部会長 避けられないものに対して情報の収集と発信を行うという文脈になる。今の話はテロ等がない社会にしたいというもう少し大きな話である。
- 梶原委員 そのようなカテゴリがこの中になかったため、入れるとしたらここしかないと感じている。
- 事務局 施策の方向性についてご意見をいただいたが、ここでは資料1、資料2への質問をお願いしたい。ご意見についてはこの次の議題でお願いしたい。

### (3) 中央区基本構想審議会快適部会 施策の方向性（素案）について

事務局から、資料3「中央区基本構想審議会快適部会 施策の方向性（素案）」を説明。

- 市川部会長 本日の皆様のご意見を踏まえた上で、次回までに施策の方向性を修正していく。まず1つ目の大項目、「災害・犯罪に強くいつまでも住み続けられるまち」の「(2) 施策の方向性」についてご意見をお願いしたい。
- 志村委員 1ページの2段落目の後について発言する。中央区地域防災計画では震源を東京湾北部、地震規模はマグニチュード7.3で、中央区内の震度6強と想定しているが、今回の熊本地震ではマグニチュード6.5で震度7の揺れを記録している。その点で再検証が求められると思う。
- また、4段目と5段目の間に「このような自然災害のリスクを軽減するために、国が進める東京一極集中の是正に本区も取り組まなければならない」と挿入したらいかがと思う。
- 市川部会長 第2パラグラフの「今後30年以内にマグニチュード7程度の大地震の発生する確

率が70%』というのは中央防災会議の公式コメントである。

志村委員 熊本地震においてマグニチュード6.5で震度7の揺れがあったことを踏まえれば再検証が必要ではないかと思う。「災害に強いまち中央区」を実現することが求められています。」という現況と課題の文章にふさわしい文言や検証をする必要があると思う。

市川部会長 今後30年以内にマグニチュード7程度の大地震の発生が70%というのは、中央防災会議の正式な発表である。全ての自治体が中央防災会議の数字を前提にしているため、この文言は良いと思う。熊本は山間地である等、中央区とは状況が異なるため検証対象とはならず、中央区について書くのであれば中央防災会議のデータを使うことは妥当だと考える。

志村委員 文言を強引に入れるということではないが、ここに入らなくとも中央区地域防災計画では検証が必要ではないか。

市川部会長 地域防災計画は東日本大震災の後に1度見直しを行い、さらにもう1度見直しを行っており、法的には固まっている。常に物事を見ていく姿勢は必要であるが現段階では固まっているため、ここでは言及しなくても良いのではないか。

もう1点の東京一極集中の是正はどこに関わりがあるのか。

志村委員 自然災害のリスクを軽減させるためにも、東京一極集中の是正に取り組みなければならぬという趣旨である。

市川部会長 一極集中しているから是正しなければならないという発想ではなく、都市としての集積に対してどのような対策をするかが重要である。

磯野委員 「(2) 施策の方向性」、「② 安心して住み続けられる住宅・住環境づくり」の「(ア) 建築物の耐震化の推進」に関して、建物の耐震化の促進に向けた取組は現状でもされているが、熊本地震のように震度7程度の地震がたて続けに起こった場合には、今の耐震レベルでは持たない可能性がある。この点を1度整理した上で上手く入れ込むことができればと思う。

また、「(イ) 高齢者等に対応した住宅・住環境の整備」について、「(1) 現況と課題」には「高齢者人口の増加を見据えた住宅・住環境の整備」とある。マンションや優良賃貸住宅、サービス付き高齢者向け住宅等の供給は行われているが、1番の問題は核家族化により、高齢者の夫婦世帯や一人暮らし世帯が多くなっている現状である。そのため、近居・同居という形につなげていくことが重要だと思っており、上手く入れ込むことができないかと思う。

3点目として危機管理の話がある。武力行使や大規模テロがないまちだとアピールするというご意見が先ほどあり、それは本当に必要だと思うが、現実問題として人が集まるところがターゲットになる。中央区は銀座、日本橋、築地と大規模な繁華街を持っており、住宅においても高層マンションが非常に多く、危機管理の部分では警察、消防を含め、行政側と住民がいかにコミュニケーションを取っていくかが大切でこれを少し入れ込むことができたらと思う。

また、「② 安心して住み続けられる住宅・住環境づくり」の「(ウ) マンション支援」に関して、中央区は老朽化したマンションが多数あり、いつまでも放置するわけにはいかない。しかし、住まわれている方も高齢化し、建て直しに踏み込めない現実もある。今後、まちづくりの一環の中で行政として取り組んでいかなければいけない大きな課題になると思うので、このことを上手く入れ込んでいただきたい。

市川部会長 1点目に関しては、今回の熊本地震により、強い揺れが何回も来ると実は安全だと思っていた建物も危険な可能性があることが分かったという話である。これは建築基準法における根源的問題があり、一定レベルの震度に対する基準はあるが、それが何回も来るというケースが今回初めて生じ、今現在、建築基準法をどうするか

という検討に入っている。建築基準法に先走って言えるかは分からないが1つの懸念である。

2点目の「② 安心して住み続けられる住宅・住環境づくり」、「(イ) 高齢者等に対応した住宅・住環境の整備」における「高齢者等に対応した住宅・住環境の整備」は、住まい方に問題があるため、近居・同居を入れたらどうかということだと思う。この大項目のテーマは「災害・犯罪に強くいつまでも住み続けられるまち」であるが、施設ではなく住まい方、コミュニティのあり方をここに入れられるのかどうか。

また「(ウ) マンション支援」において、今あるマンションが老朽化したらどうなるかに関するコメントがないため、その対応は入れても良いと思う。

4点目の危機管理に関しては、「① 地域ぐるみの防災力・防犯力の向上」の「(ウ) 犯罪のない安全・安心なまちづくりの推進」において、「情報の収集と発信を行い、行政・事業者・地域が連携して危険性の軽減に努め、危機管理体制を強化する」と言っているため、これをさらに深掘りするか、他とのバランスでどこまで書くかだと思う。危機が起きないための努力もするが、一般論では危機は必ず発生するため、危機が起きないように努力もするが、起きた場合の対応も重要であり、両方を睨む必要がある。ただ、大規模テロは準備をしてもよほどの準備をしない限り発生してしまう。そのため、テロが起きた後にどうするかが自治体対応、大規模テロを起きないようにするのは国の役割となる。武力攻撃は国民保護法があり国の役割が大きいことから、ここで深入りしなくても良いと思う。

また、言葉が強いので普通は「大規模テロ」くらいの表記にし、「武力攻撃」等の表現は使わないのではないかな。

吉田委員

近居・同居については、区も人口回復過程に推奨をしてきたが、社会現象としてはその方向に進んでおらず、核家族化が進行している。その中で高齢者独居の増加だけではなく、一般的なご家庭でも、近居も同居もないために大変な思いをしている家庭が多く出てきている。そのような社会の中で、行政としてどこまで何をやるべきかが課題の1つになっている。

昔に戻れば良い、本来家族はこうあるべきだと近居・同居を無理に推奨する必要はないと思う。むしろ核家族化が相当進んでいる中で地域力をいかに回復する方が主要なテーマであると感じている。

磯野委員

中央区の住宅事情を考えた場合に、結婚をすると親と同居できないが中央区には住みたいという人が非常に多い。これは独居高齢者の話だけではなく、例えば保育所が足りなくても、近所に親御さんが住んでいればそこで面倒を見てもらえるといったことにより様々な部分が緩和されるという意味も含めて提案している。

吉田委員

多くの方は近くに親も親戚もいない。その状況で両親ともに現役で働いており、かつ子育てもしたい方に焦点を絞りながら政策を考えるべきではないか。親や親戚との近居・同居を推奨する施策よりも、現実の核家族化に対応し、共働きで成り立つようにするために、地域としてあるいは自治体として何をすべきかを考えるべきではないか。

市川部会長

これはライフスタイルにどこまでコミットするかだと思う。私は「② 安心して住み続けられる住宅・住環境づくり」の「(イ) 高齢者等に対応した住宅・住環境の整備」として、行政としてできる役割が書いてあると理解しており、「区民の多様なニーズやライフスタイルにあった住宅や良好な住環境を確保すること」は自治体の責務であると思っている。また、「特に高齢者が求める安全で暮らしやすい住宅を確保するため」と書かれており、そこから先の近居・同居に関しては家族の判断だが、近居・同居しない高齢者が多くいるイメージだと思っていた。そのため、どこまで踏み込むかということである。吉田委員はあまり踏み込みたくないということか。

- 吉田委員 踏み込みたくないということではなく、施策の方向が違ってしまうということである。行政も思い込みで失敗した例が多くあるため、思い込みの中で施策を行わずに、現実に着目して行うべきだと思っている。
- 市川部会長 タイトルが「災害・犯罪に強くいつまでも住み続けられるまち」であり、コミュニティの中身までは立ち入っていない。近居・同居できればとは思いますが、近居したくない家族もいる。
- 大辻委員 コミュニティの話は非常に大事な話だと思っている。そのため、コミュニティを1つの大項目として考えたかどうかと思う。中央区は独居の方が多く、医療をしても家に帰せないようなお年寄りが出てきてしまう。一人暮らしや認知症同士の家庭など、支援が必要なご家庭が多くなっている。また、夫婦2人で暮らしており、子どもが病気をした際は会社を休まなくてはならない等、孤立しているために動きがとれないご家庭が多くなっていることが中央区の今の特性だと思う。そのような状況であれば、コミュニティをどうするか、地域でいかに家族を支援していくかは防災だけの話ではなく、中央区の大項目の1つだと思う。
- 市川部会長 具体的にはどのような政策をすれば良いのか。
- 大辻委員 非常に難しい。しかし、地域で高齢者が孤独にならないために、何らかの形で支えていく必要がある。
- 市川部会長 よく使う言葉としては地域で助け合うとか、皆で見えていくという言葉がある。
- 大辻委員 地域での助け合いなどは今の中央区にも少しはあると思う。
- 吉田委員 大辻委員のおっしゃるとおり、中央区の大きな課題の1つであると思うが、この快適部会だけの話ではなく、基本構想全体で考えなければならない。子どもの預かりに関しても、少し前までは児童館だけで済んでいたが今は足りなくなり、プレデイで19時半まで預かっている。行政や地域が手を出して、それぞれの家族単位の生業を助けていかななくてはならなくなっている。行政か地域かの線引きは考える必要があるが、この部会だけでは収まりきらない大きな問題である。
- 市川部会長 福祉系はどこの部会に入っているのか。
- 事務局 福祉は安心部会に入っている。コミュニティに関しては躍動部会で検討している。
- 市川部会長 快適部会はまちづくりに関することであるため、比較的フィジカルなものを行っている。
- 吉田委員 ソフトのまちづくりの担い手をいかにするかの部分ではあると思うが、基本構想全体のテーマであることは事実である。
- 市川部会長 結論から言うと、もはや家族ではなく、地域が面倒を見るしかない。そのため、近居・同居というテーマではなく、皆が見るしかないということになる。
- 志村委員 出生率が高くなった中央区において、生まれた子どもが成人した後も、同居も含めて親の近くでという形で、単純な同居ではなく、生まれた子どもがいつまでも中央区に住み続けられるまちをつくってほしいという意味だと思った。
- 磯野委員 今高齢者が独居になっているのはやむを得ず独居になっている。一方、中央区で生まれ育って結婚をして今後も住み続けたいと思っている人が、家賃が高いために出ていってしまうことが現状である。
- 吉田委員 経済環境のみで核家族化が進行しているわけではなく、1つのマンションの中に2世代住むことを嫌がる選択が多いために核家族化が進行していることもあると思う。そこであるべき姿として、近居や2世代居住を勧めても、現実としては、子どもたちが遅い時間まで学校で預けられてお腹を空かして待っている。それに対して地域や行政が施策を展開する際に、近居・同居を勧めるとは言いにくいのではないのか。
- 市川部会長 世の中の時代の背景が変化し、行政が何でも面倒を見ることはできないというこ

とは皆分かってきている。するとNPOや地域の構成員が頑張る世界に変わってくる。しかしそれについては、恐らく安心部会の範囲かと思う。ここではライフスタイルに合った物理的な状況をいかにするかにやや重点を置いていると思う。同居しても構わないが、そこまで書かなくても良い気がする。

志村委員 「(2) 施策の方向性」の「① 地域ぐるみの防災力・防犯力の向上」、「(ア) 地域防災体制の充実・強化」において、「防災訓練については実践的で実効性のあるものに改善を図る」という文言を挿入したらいかがかと思う。防災訓練も行われているが、町会や地域ごとに1ヶ所に集まり避難場所へ移動することが、実際に災害が起きた時にそれをどれだけできるのかという意味では、実践的で実効性のある防災訓練も必要ではないかと思う。

市川部会長 防災訓練の中身の問題もあるが、参加者が少ないことや消防団のなり手が少ないなど様々なことがある。実践的であるかに論点を置くよりも、皆が参加してやらなければ意味が無い。地域防災体制の充実・強化では、それらを行うと大卒で言えばよく、後は中身を良くして、人が多く集まる工夫をすることである。今も頑張っているが、一番深刻なのは町会の高齢化や訓練に人が集まらないことであるので、実践的な防災訓練というのは違和感がある。

志村委員 防災拠点運営委員会の役割が大事になるが、そこで防災訓練の中身について様々な工夫をしていく必要があると思う。

吉田委員 実践的、実効性のあるという意味において、本区はまちそれぞれで相当個性がある。晴海の防災訓練と新川の防災訓練は違わなくてはいけない。そのため、もう少し地域性に根ざしたという意味では言われることはそのとおりだと思う。

大北委員 東日本大震災の被災地の話を聞くと、やはり回数を重ねて防災訓練を行っていたところはすぐに対応ができると聞いた。そのため、どのような形でも良いので、防災訓練に関する記載を入れていただきたいと思う。

梶原委員 この文章はしっかり言い当てている。日々の家庭における備蓄と、防災拠点の運営の強化に尽きると思う。

市川部会長 細かい所はいくらでもあるが、このくらいで抑えておいた方が良い。

吉田委員 防災訓練に関しては、ニュアンスを入れることを検討したい。

志村委員 「(ウ) 犯罪のない安全・安心なまちづくりの推進」において、「推進にあたっては人権やプライバシーに十分配慮することが求められる」という文言を挿入したらどうか。また、「(エ) 消費生活の安定・向上を目指した情報発信の推進」においては、「マイナンバーカードの危険性の周知」も挿入したらいかがかと思う。

マンション対策においては、既存マンションの空き室の有効な活用方策を検討と書かれているが、住み続けられるという部分で活用できればと思う。

市川部会長 意見として承る。

今井委員 区民としての意見だが、「② 安心して住み続けられる住宅・住環境づくり」の「(ア) 建築物の耐震化の推進」に関して、マンションの理事会で耐震化の話をする際にノウハウがなかった。一昨年に中央区から防災のコンサルを派遣いただき、マニュアルを作成し始めたが、そのような取組を行政として取り組んでいただけるとありがたい。少し専門的な立場からのサービスを一緒にやっていただければと思うので、そのような一文が入ってくると嬉しい。

吉田委員 それは「① 地域ぐるみの防災力・防犯力の向上」の「(イ) 地域特性に応じた防災対策の推進」のところではないか。

今井委員 「① 地域ぐるみの防災力・防犯力の向上」の「(イ) 地域特性に応じた防災対策の推進」も少し気になっている。例えば私の住んでいるマンションでは、中央区に一部倉庫を貸しており、区の備蓄やヘルメットが入っている。今後、晴海に建つマン

ションや商業施設には勤務している方のための備蓄がないと建設することができないと聞いたことがあるが、そのような取組を地域や一般事業者を含めてやれると良い。その点についても「(イ) 地域特性に応じた防災対策の推進」に入れていただけると面白いと思う。

吉田委員 「① 地域ぐるみの防災力・防犯力の向上」の「(イ) 地域特性に応じた防災対策の推進」での書き込みを検討したい。

市川部会長 「地域コミュニティの形成を支援していく必要があります。」の後の文章に少し入れることになるかと思う。

市川部会長 次に2つ目の大項目、「水とみどりあふれる豊かな環境を未来へつなぐまち」についてご意見をお願いしたい。

平野委員 先程の「(ウ) 犯罪のない安心・安全なまちづくりの推進」について、確かに武力攻撃という表現は相応しくない文言だと思う。

それから、「水とみどりあふれる豊かな環境を未来へつなぐまち」については、水は停滞すると腐り汚くなるので、常に動いてないと綺麗な状態ではない。それをどこかに入れる必要があるのではないか。

志村委員 3ページ「環境負荷が少ない持続可能な社会をつくっていくことが必要です。」の次に「持続可能な社会をつくっていくことが必要です。そのためにも大量の地球温暖化ガスを排出する超高層オフィスの建設は抑制する必要があります。」を入れることを提案する。

市川部会長 第2段落目の「環境に大きな負荷をかけています。そのため、省資源・省エネルギーなどの低炭素社会の実現に向けた取組」という文章が全て応えている。例えば超高層ビルの壁面が熱を吸うなど、在来型の発想自体が変わり、逆に環境を良くするというテーマも出ている。技術革新やこれから20年の基本構想を考えると、「低炭素社会の実現に向けた取組」で対応できていると思う。

志村委員 ブリヂストンビルや戸田建設ビルの計画では、建築物における環境負荷低減技術の導入、資源の有効利用・再利用等の取組、ヒートアイランド現象の緩和を図る緑化推進等に取り組むことでCO2の削減を目指すとしているが、容積率が高いため、CO2排出量が現在の1.7倍に増えてしまう。環境負荷が少ない持続可能な社会とはかけ離れているのではないか。

市川部会長 容積率を使って、建物の大きさが2倍であれば、1.7倍であっても、実際は減っている。マクロ全体のテーマなので個別に1つを取り出しても整合しない。地球温暖化だけで言えばそうだが、一方で東京に集まることによって様々な富も生んでおり、全体として捉えるべきであり、個別に取り出すべきではないと思う。

ここでは環境負荷をかけていることは分かっており、省資源、省エネルギーに取り組んで、低炭素社会を作ることが大枠であり、それをどうするかを考えるべきではないか。

田中委員 「(1) 現況と課題」の中で「清らかな水と空気を次の世代に引き継ぐ」というところに含まれると思うが、「(2) 施策の方向性」では水自体を改善することが一番の根本だと思うので、1つテーマとして入れていただきたい。

2つ目は「(イ) 公園・児童遊園等の整備充実」に「積極的に」を入れていただきたい。

市川部会長 水のクオリティを上げる話では、例えば東京駅の地下を掘ると多量の水が出る。以前に皇居の堀へ流す話になったが、生態系の破壊の観点から行われなかった。水質を良くするためには、中央区の川の水をどのように流すかが問題として生じるが、少し大きな話となる。

- 吉田委員 日本橋川でも高速地下化の際にまちの人が意識するのは、高速を地下化して綺麗にするのであれば、水質も綺麗にしてほしいということである。現在行っている下水道管や貯留池の整備による効果も見定めながらとなる。
- もう1つははっきりしていることとして、築地川の南支川である。ここは溜りになってしまっていて水が動いておらず、汚濁している。築地市場の仮設道路が撤去され、改善できる状況になれば、水を回す仕掛けを検討しなくてはいけない。水辺環境を整備する上では水質改善は必要である。水質や水を良くするという内容とはどこかに入れる。
- また、まちづくり全体としては、水辺に向って開かれたまちづくりをすることもテーマとして考えなくてはならない。
- 梶原委員 「環境に大きな負荷をかけています。」と「低炭素社会の実現に向けた取組」から、水を綺麗にするという意味と読んだが、違うのか。
- 吉田委員 より具体的に書かなければならないと思っている。「安全・快適な水辺環境の整備・充実」の「水辺環境」という辺りに、もう少し書き込む必要があると思う。
- 市川部会長 日本橋川も魚が生息するなど良くなっており、ゆっくり変わっているが、もっと積極的に取り組むことを書き込んでいくこととなる。
- 田中委員 前回、市川部会長から昆虫や野鳥などの生き物が見られるようにしようとお話があったので、同じ発想から、水を良くすることは必然的に魚が住める水になると思う。
- 市川部会長 「(1) 現況と課題」の2行目に「生物多様性」とあるため、具体的に緑、昆虫復活など、自然を戻す作業を行うこととなる。
- 志村委員 ビオトープの整備などの記載がない。
- 吉田委員 まずは水を浄化して魚を戻すことを先に行う必要がある。中央区の場合は日本橋川と築地川の南支川ということで目標がはっきりしている。
- 大辻委員 禁煙とポイ捨て禁止について入れていただきたい。
- 磯野委員 一番の問題は受動喫煙であるため、禁煙ではなく分煙だと思う。
- 吉田委員 テーマとしては、安心部会で健康被害の防止ということで入っている。
- 志村委員 5ページ「③ 循環型社会づくりの推進」の「(ア) 環境に対する意識啓発と発生抑制の促進」について、大規模再開発におけるスクラップアンドビルドが進められているので、「産業廃棄物を大量に排出する大規模再開発事業等のスクラップアンドビルドのまちづくりからの脱却が求められる」を加筆してはどうか。
- 市川部会長 最近の建築はスクラップアンドビルドではなく、色々なものを活用している。環境に対して厳しくなっており、建築資材もそれを考えて作っていて、時代は変わっている。これからの20年にはスクラップアンドビルドという言葉は向いていないのではないか。
- 市川部会長 次に3つ目の大項目、「魅力ある都市機能と地域の文化を世界に発信するまち」についてご意見をお願いしたい。
- 梶原委員 7ページ「(イ) 交通環境の改善」の中で自転車のことがあるが、放置自転車撤去や放置自転車対策の推進の前に、自転車利用のルール of 徹底が先にあると思う。喫緊の課題であり、20年後にどうかとは思いますが、現状では自転車レーンを歩く方もおり、自転車に乗る方のマナーも含めてルールが徹底されていないと思う。
- 市川部会長 最後の2行「自動車から自転車への転換、放置自転車の解消、区内回遊性の向上を図るため、コミュニティサイクルの拡充が必要です。」が答えである。世界の多くの都市ではどこも乗り捨てで共同で使っている。コミュニティサイクルが主役になることを前提に、放置自転車の撤去ではなく上位概念から記載すると良い。そもそも



も、大都会では自転車は持たなくて良く、コミュニティサイクルの仕組みが始まっているので移行した方が良いと思う。今現在の問題提起ではなく、これからどうするか、前向きな話にまとめてもらえればと思う。

交通環境の面では、今の銀座の中央通りの混雑など、バスの路上駐車が深刻ではないか。

吉田委員 大変深刻である。区としても築地などにバスの駐車場を持たないと都心部の観光は成り立たない。

市川部会長 都心部における車の整理がテーマとしてあって良いと思う。観光客が増え、団体用のバスが増えてくると機能しないのではないか。

吉田委員 ご指摘の部分が記載されていないため、入れるように工夫する。

市川部会長 6ページ「① 都心にふさわしい基盤整備」の「(ア) まちなみに調和した風格のあるまちづくり」の風格のあるまちづくりとは何か。

事務局 地域で通りに愛称名を付ける取組がある。そのような流れを踏まえて、歴史と伝統と風格という意味合いで記載している。

吉田委員 道に愛称名を付けると同時に、地域から歩道にはまちなみに調和した素材を利用したいなどの要望もあり、区の費用だけではなく地域の負担金も含めてまちづくりを進めており、それも表現している。

市川部会長 「すべての人が安全・安心に利用できる強靱な都市基盤の形成」は少し言い過ぎではないか。

吉田委員 先ほどの観光バスの問題と合わせて整理したい。

市川部会長 「電線共同溝の整備」については、電柱をなくすという表現が分かりやすい。

平野委員 8ページの終わりに「首都高移設撤去と再開発を組み合わせる日本橋川沿いの景観を再生し」とある。20年先を考えれば、都心部の高速道路をすべて地下化することも考えた方が良いと思う。喘息もあるとのことで、大気汚染という意味からも東京都全体のことを考えて、全部地下化する理想を求めていくと良いと思う。

市川部会長 地下化はいずれされるのではないか。

平野委員 それを少しでも早めてもらいたい。

市川部会長 ここでは、中央区の色々なエリアの歴史や個性をいかしたまちづくりを言いたいのだと思うが、一方で、日本橋と築地市場跡地しか記載されていない。色々な場所があることを書く必要がある。また、日本橋については江戸時代から続く歴史があるので、それを活かしていく、元に戻していくという中で、例として挙げても良いかもしれない。

大北委員 築地場外は老朽化しているが、建て替えるのか。

吉田委員 個別の耐震化や不燃化は行われると思うが、面的開発などは考えていない。あの佇まいが良いと思っている。築地市場跡地とどのように連携させるかが重要である。築地市場跡地は都心部に残された唯一の公共用地であるが、その中で今の都市部に必要なものとして、交通機能の補完があると思う。バスターミナルやバス駐車スペースに加え、東京湾、隅田川の水上交通の結節点として港の機能も持たせるなど、交通拠点として整備できればと思う。全体としては都市部のこれからのあり方に寄与できるものになりたいと思う。

市川部会長 日本橋の復活と築地は中央区にとっての目玉である。

また、日本橋の復活は、周辺の水辺空間や周りのまちづくりとトータルで考える必要がある。周辺全体の計画により日本橋復活がいきってくる。

吉田委員 その通りだと思う。そのため、水辺に背を向けて立つ風景をなくす必要がある。

市川部会長 それを踏まえ、築地と合わせて日本橋をもう少し書くことはいかがか。

吉田委員 地域の個性をいかしたまちづくりと表現をし、その中で築地や日本橋について入

れていきたい。

市川部会長 重要なことは、7ページの下部「個性豊かな地域の文化や歴史・景観など有形・無形の本区の財産」に尽きる。他にこれほどに財産を持っている区はないので、もう少し書いても良い。それを書いた上でそれを活かして東京を引っ張っていく。その流れの中で日本橋と築地がある方が良い。

今井委員 中央区を歩くと先進的なビルが立ち並ぶ地域と風格漂う歴史のあるまちがあるが、これらは中央区の資源であると思う。それも表現できるとありがたい。

吉田委員 近代的だけではなくある程度、混在しているのが良いということだと感じる。

今井委員 ハード面もソフト面も含めてそう思う。

市川部会長 歴史復活は書かれているが、晴海に選手村が整備され、新しいまちになることなど、未来を語ることがあっても良いのではないかと。

今井委員 「(1) 現況と課題」に「各時代における先進技術をまちづくりに取り入れながら昇華させた地域文化」とあるので、施策の中にも反映できると良い。

志村委員 専門家の方も「現在においてはエコロジカルでも文化的でもない都市に国際ビジネス拠点、国際観光拠点の形成などありえない。国際競争力のある企業や世界各地から訪れてくる観光客に積極的に選ばれることはない。」と言っていることから、エコロジカルという言葉を使い、歴史や文化や自然や環境が調和する都市が必要という文言を入れたらどうか。

そして8ページの「世界をリード」という言葉は、誰がリードするというよりも、グローバルに向けて進んでいくという意味で、「世界と調和するまちづくり」とすることを提案する。その流れから6ページも「地域文化を受け継ぎながら、区民一人一人が豊かに暮らせる世界に誇れるエコロジカルなまちづくりが求められています。」という形で中央区の歴史、文化に基づいたまちづくりを打ち出してはいかかがか。

市川部会長 日本人がすぐ分かるカタカナ語は良いけれども、誤解を招く、分かりにくいカタカナ語は使わない方が良い。

志村委員 「未来を実現する」という言葉は抽象的であるため、「地域文化をいかし人と環境にやさしいまちづくり」などに変更してはいかかがか。

市川部会長 具体的な中身を考えると「人と環境にやさしい」では狭いのではないかと。

志村委員 「未来を実現する」は抽象的である。また、「世界をリードする」ということに問題があると考えている。

市川部会長 世界をリードしても良いのではないかと。世界に冠たるものをつくれる、日本人のプライドがあると思う。また、「未来を実現する」は我々がよく使うフレーズあって、それを実現すると言えば一般の人にも分かる。全てにおいて世界基準を上回る努力をする印象を持っており、それは環境だけではないのではないかと。

志村委員 今、中央区は世界一の都市、東京をけん引する中央区を目指し、東京都も世界一ビジネスがしやすいまちを掲げている。中央区の中では不動産投資等で再開発事業が行われているが、その流れをこれからも続けて良いのか。

市川部会長 世界一を目指すのは、環境、景観、場合によっては投資環境も世界一で、トータルで世界に自慢できる場所にしたいということではないかと。

志村委員 世界に誇れると世界一は意味が違うと思う。また、世界をけん引するということも出されており、それが走ると問題ではないかと。

そのため、6ページ「3 魅力ある都市機能と地域の文化を世界に発信するまち」を「安心・快適・魅力ある都市環境」と、都市機能ではなく都市環境とすることを前回提案した。20年先を見越したまちづくりでは、都市環境という形で見るのが大切で、人と環境にやさしいまちづくりを土台にして進めていくことが必要ではないかと。そのような立場から「(イ) 世界に発信する魅力的なまちづくり」の文章を作

り変えることが大事であると思う。

田中委員

話が少し戻るが、先ほどの自転車のルール・マナーについては私も必要だと思う。  
また、7ページ「電線共同溝の整備」は20年後を考えると、もう少し適切な言葉があるのではないかと。

志村委員

事務局に調査依頼をしたい。1つ目はアジアヘッドクォーター構想では5年間で500社の外資系企業の本社を誘致すると目標を立てているが、2013年から2015年の3年間で何社誘致できたのか。2つ目は区でこれから32棟が開発予定であるが、住宅やオフィスの需要に見合った開発となっているのか、その裏付けデータを調査していただきたい。昨今の人口急増の原因は1998年策定の基本構想と基本計画2005である。これらが進められてきて、人口が急増し、様々な行政ニーズが生まれてきている。今回の基本構想はまちづくりの計画が需要に見合ったものかどうか、30年、40年先を見通したものにしないといけない。3つ目は再開発事業の完了地区で事務所用途の23の建築物のそれぞれの稼働率の調査をしてほしい。今後、無駄な計画にならない裏付けとして調査していただきたい。

吉田委員

基本構想審議会の中で調査依頼する内容ではないと思うが、答えられるものは答えることとしたい。

現在は人口増加のスピードが速くなって、生活基盤などの整備も考えなくてはいけませんが、前基本構想策定時は人口減少に伴い夜間人口に対する商業サービスも低下するという状況で、歯止めをかけることが中央区内の関係者全員の願いであり、全ての方が人口回復を目標として20年前の基本構想を作っている。その時にも現状を懸念していたとするのは違和感がある。

志村委員

基本構想を具体化するために基本計画2005で政策を取り入れてきて、人口のコントロールがつかなかったものと考えられる。再開発事業のコントロールをしないと20数万までの人口になってしまう。適正人口にコントロールする必要がある。

市川部会長

適正人口とは何人か。

志村委員

中央区の適正人口については議論をした方が良い。

吉田委員

再開発事業は地権者の方々が、自分たちのお金をかけて耐震化、建て替えをする流れであり、地方公共団体には人口をコントロールできるほど、大きな都市計画的権限は与えられていない。

中央区は人口予測を出しており、それに向かってどうするかを考えることが基本構想審議会の役割である。

市川部会長

区は将来人口推計を出した上で、それを前提として基本構想の話をしている。それを議論することは違和感がある。

磯野委員

前回伊藤委員から発言のあった歩行空間の拡充について、施策の方向性に記述がないのではないかと。

市川部会長

「(7) まちなみに調和した風格のあるまちづくり」、あるいは「(イ) 交通環境の改善」に歩行空間の内容を入れることでご対応をお願いしたい。

#### (4) その他

市川部会長

その他、何かあればお願いしたい。

(発言等なし)

### 3 閉会

市川会長の閉会宣言により終了。